

# 郷土資料の 散歩道

図書館郷土資料室  
☎21-61111 内線6201

## 鳴洲聯珠

木村高広が作成した  
自分局の漢詩辞書

今回は図書館所蔵の「興讓館本」の中から、「鳴洲聯珠」を紹介いたします。明和四年（一七六七）に米沢藩士木村丈八高広が作成した漢詩の用語辞書といったものです。

その体裁は、元文四年（一七三九）に出版された「明詩礎」という漢詩用語辞書を分解し、それより大きな和紙に貼って、その余白に別の辞書を書き写し、一冊で四種類の辞書が引けるよ



▲点線部分が「明詩礎」を貼った部分で、その上下左右に辞書を書き写している。

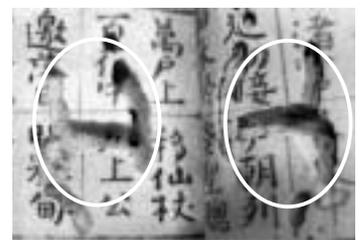
米沢図書館が引き継いだ「米沢善本」や「興讓館本」等の貴重な書籍類は、大切に保管および利用してきましたが、この「鳴洲聯珠」は木村が常に使用したためか擦り切れ等の傷が多く、表紙も欠損の状態で、虫くい箇所も若干みられました。図書館では郷土にとって貴重な資料と判断し、平成十七年度の補修資料に選び、

### 平成十七年度に 補修を行う

東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターに補修を委託しました。補修作業では、いったん綴じ糸を解き、汚れの部分は水でクリーニングし、虫くい部分には和紙を埋め込み、表紙は裏表紙にあわせ和紙を藍染して新調、茜で染めた絹糸で綴じ直しました。また、修復に際しては、修復前の状態がわかるよう写真を撮り、解いた元の糸も別に保存しています。このように図書館では、米沢に伝わった貴重な資料を、後世に伝え長く利用できるように、毎年少しずつではありますが、補修作業を続けています。



▲「虫食い部分の修復後」



▲「虫食い部分の修復前」

※修復前の写真は「市立米沢図書館所蔵 鳴洲聯珠 大和鑑 南町水帳 修理報告書」（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター）より

う工夫したものです。余白に写された辞書は、上部は「仄韻礎」、中央部分は「明詩擢材」、下部は「唐明詩聯」で、借りてきて写したものでしょうか。細かに丁寧書き写され、木村の漢詩にかける熱心さが感じられます。

### 盟友荏戸善政の序

作成者の木村高広は、漢詩に秀で多くの詩を残していますが、上杉鷹山の側近として活躍した家臣としても有名です。竹俣当綱や荏戸善政と共に、鷹山の藩政改革を推進する中心となり、凶作に備え初蔵を建てるよう提言した

のも木村や荏戸でした。

辞書の巻頭には、盟友荏戸の自筆の序文が添えられています。木村はこの辞書の題名を荏戸に依頼したようで、序文には「木村の号の鳴洲をとって鳴洲聯珠とした」と記されています。

この「鳴洲聯珠」が出来た明和四年は鷹山が藩主となった年で、荏戸と木村は鷹山の小姓として江戸にいました。鷹山は藩主就任後直ちに大儉約令を出しますが、その裏には荏戸と木村がいると誤解され、その批判から鷹山を守るため、二人が病氣と称し米沢へ帰国したのは翌五年二月のことです。そんな緊迫した時に作成された辞書です。